

2021年度(令和3年度)地方交付税と地方財政

令和3年度地方交付税算定基礎

| 区分 | | 令和3年度 当初要求額 A | 令和2年度 当初予算額 B | 増減額 (A-B) C | (単位:億円) 増減率 C/B |
|-------------------|-----------------|---------------------|---------------------|-------------------|-----------------------|
| 一般会計 | 国税4税の法定率分等 ① | 131,930 | 150,898 | △ 18,969 | △ 12.6% |
| | 所得税 × 33.1% | 63,403 | 64,641 | △ 1,238 | △ 1.9% |
| | 法人税 × 33.1% | 30,520 | 39,935 | △ 9,416 | △ 23.6% |
| | 酒税 × 50% | 5,827 | 6,325 | △ 499 | △ 7.9% |
| | 消費税 × 19.5% | 39,464 | 42,352 | △ 2,888 | △ 6.8% |
| | (小計) | 139,213 | 153,253 | △ 14,040 | △ 9.2% |
| | 過年度補正予算精算分 (注1) | △ 3,004 | △ 2,355 | △ 650 | 27.6% |
| | 令和元年度国税4税決算精算分 | △ 4,279 | 0 | △ 4,279 | 皆増 |
| | (小計) | △ 7,283 | △ 2,355 | △ 4,929 | 209.3% |
| | 一般会計からの加算分 ② | 26,174 | 5,187 | 20,987 | 404.6% |
| 法定加算等 | 5,246 | 5,187 | 59 | 1.1% | |
| 臨時財政対策特例加算 | 20,928 | 0 | 20,928 | 皆増 | |
| 計(入口へス) ①+②=③ | 158,104 | 156,085 | 2,019 | 1.3% | |
| 特別会計 | 地方法人税の法定率分 ④ | 10,578 | 14,564 | △ 3,986 | △ 27.4% |
| | 地方法人税 × 100% | 11,110 | 14,564 | △ 3,454 | △ 23.7% |
| | 令和元年度地方法人税決算精算分 | △ 532 | 0 | △ 532 | 皆増 |
| | 返還金 ⑤ | 1 | 4 | △ 3 | △ 86.0% |
| | 特別会計借入金償還額 ⑥ | △ 6,000 | △ 5,000 | △ 1,000 | 20.0% |
| | 特別会計借入金利子 ⑦ | △ 749 | △ 771 | 22 | △ 2.9% |
| | 剰余金の活用 ⑧ | 0 | 1,000 | △ 1,000 | 皆減 |
| | 前年度からの繰越 ⑨ | 0 | 0 | 0 | — |
| | 計 ④+⑤+⑥+⑦+⑧+⑨=⑩ | 3,829 | 9,797 | △ 5,967 | △ 60.9% |
| 地方交付税総額(出口へス) ③+⑩ | 161,933 | 165,882 | △ 3,949 | △ 2.4% | |

(注1) 平成20、21、28、令和元年度補正予算における臨時財政対策債振替加算相当額の精算分である。
(注2) 表示単位未満四捨五入の関係で、積上げと合計、増減率が一致しない場合がある。
※1 令和3年度において、引き続き巨額の財源不足が生じ、平成8年度以来26年連続して地方交付税法第6条の3第2項の規定に該当することが見込まれることから、同項に基づく交付税率の引上げについて事項要求する。
※2 東日本大震災に係る地方の復旧・復興事業等に係る財源の確保については、事項要求とする。

資料)2021年度政府予算資料

2021年度(令和3年度)政府予算の国家財政と地方財政を繋げる地方交付税算定は、財源(国税の法定率分)である所得税、法人税、酒税、消費税がコロナ禍による経済活動自粛等の影響から対前年度当初比9.2%減、1.4兆円強の減少となっている。法定率分の減少は、財源の調整と保障を担う地方交付税の機能を低下させる。具体的には、近年、減少傾向にあった財源不足額が拡大し、臨時財政対策債発行予定額は6.8兆円と同当初対比で倍以上の規模となり2010年度当初予算の7.7兆円規模に次ぐ状況となった。臨時財政対策債の残高は累増し80兆円を超えてくる見込みであり、地方財政を長期にわたって硬直化させる要因となる。国家財政と地方財政が折半で負担することが予定される不足額も4兆円強に達している。

さらに、今回の税収減は安定財源とされてきた、消費税税収の大幅な減少を生じさせている点に特色がある。実額ベースで所得税減収額の倍の規模となり、地方消費税の減収に大きく影響することが避けられない。これまでの「減少補てん債」の発行対象は、法人関係税減収分を対象としてきたものの、消費税等の減収分に対しても措置が必要となっている。地方交付税を通じた一般財源確保政策は、2021年度までの措置とされている。2022年度予算編成と共に地方交付税制度を通じた国と地方の財政関係の新たな議論が展開される。その際には、次の地方の新たな生活を形成するためのコロナ感染対策対応地方創生臨時交付金の展開も含め、地方財政のあり方を如何に設定するか根本的な議論が必要となる。